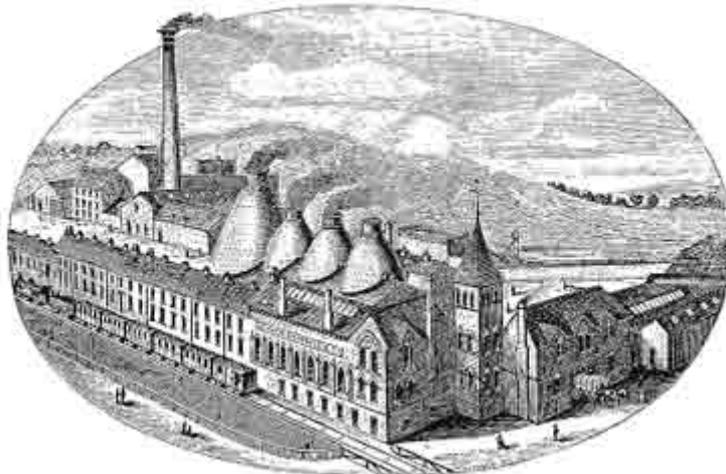


Jackfield TILE MUSEUM

ジャックフィールド・タイル博物館

ジャックフィールド・タイル博物館は、クレイヴン・ダンニル社の工場跡地にあります。1874年の完成で、イギリスにおける当時最新の設備を備え、床および壁用の装飾タイル、建築用セラミック、アート陶器を製造していました。工場の従業員は100人足らずでしたが、大英帝国に大きな市場を確保していました。しかしクレイヴン・ダンニル社が1950年代初めに製造業から撤退したため、同工場は鉄および青銅の鋳物の製造会社に売却されました。その後1983年にアイアンブリッジ峡谷博物館財団が同工場を購入し、新世紀目の2000年にクレイヴン・ダンニル社による特殊タイルの製造が再開されました。



ジャックフィールド工場には、イギリス中のタイル会社が製造した素晴らしい装飾用タイルを展示しています。この中には、スタッフォードシャー州のミントン社、ドーセット州のカーター社、シュロップシャー州のモウ社、ヘレフォードシャー州のゴッドウィン社などの製品が含まれています。コレクションのタイルは、1840年から1940年に製造されたものが多く、個別あるいは部屋の装飾として展示されています。最も重要な製造方法と装飾技術については、解説ビデオを上映しています。

象眼タイルは、床用タイルとしての耐久性を高めるため、異なる色の粘土をタイル表面に詰める製法で作られています。多くの壁用タイルの場合、さまざまな色の上薬で鮮やかな色合いを生み出しています。クレイヴン・ダンニル社は、今も昔ながらの方法でタイルを製造しており、複製品は博物館のショップで購入することができます。入り口にある孔雀が描かれている象眼タイルは、1907年にインドのマイソール宮殿から注文を受けジャックフィールド社が製造したものを、2004年に複製しました。

館内紹介

最初の展示は、19世紀以前のジャックフィールド村の紹介です。当時、村の経済は近くのセヴァーン川の産業に依存していました。しかしビクトリア時代になると、多くの地元住民が、ブロックやルーフ・タイル、床および壁用タイルなどの製造に携わるようになりました。1883年にモウ社がジャックフィールドに設立した新しい工場は、当時、世界最大のタイル工場でした(現存しているのは工房)。

タイル張りの階段を登ると、右手に当時のクレイヴン・ダンニル工場をそのまま再現した作業場とビクトリア風のオフィスがあります。その奥は、美しいアーチ型の窓が特徴のデザイン・スタジオです。ここはスタイル・ギャラリーと呼ばれ、ゴシック様式、唯美主義、アールデコなど、芸術様式ごとにタイルを展示しています。ディレクター・ルームのタイル張りの化粧室は、お見逃しなく。

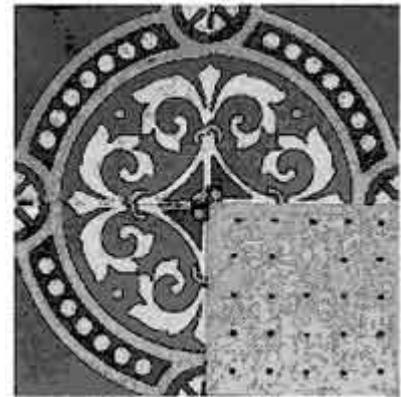


スタイル・ギャラリーの奥には、美しいタイルの部屋が続きます。ロンドンのコベント・ガーデン駅(ピカデリー線)のレプリカや、肉屋のタイル壁に描かれたヨークシャー州のリボンからランカシャー州までの地図などが並んでいます。部屋の角には美しい象眼タイルが展示され、まるで1860年代のネオゴシック様式の教会のような雰囲気です。

進路は、1870年代後半に製造されたクレイヴン・ダンニル社の象眼タイルのフロアを
通って、1930年代の典型的な居間へ続きます。暖炉には、馬上で槍を構えあう中世の騎
士が描かれています。この部屋のすぐ隣はパブで、タイルの壁と、20世紀初めにクレイ
ヴン・ダンニル社が製造したセラミック製のフロント・バーのレプリカがあります。向か
い側の壁には、1920年代のカーター社製タイル(ロンドンのミドルセックス病院から回
収)を使って、メイポールの回りを踊る人やメリーゴーランドまたは回転木馬が描かれて
います。ここでは、ビクトリア時代のトイレもぜひご覧ください。タイル張りの床と壁、
そして本物のモザイク天井が印象的です。

進路は、ロング・ギャラリーへと進みます。ここでは、3種類の伝統的なビクトリア時代
の技術(焼き付け、ダストプレス、チューブ・ライニング)によるタイルの製造と装飾に
ついて、ビデオで解説しています。また、1枚のタイルからタイル・パネルまで美しいタ
イルを展示しています。特に、孔雀を描いた1930年代のチューブ・ライニング・タイル
と、チャリングクロス病院の壁を飾っていた19世紀後半製の美しいタイルのフリーズが
有名です。このフリーズは、中世のウサギや鹿狩りの様子をタペストリーのように表現し
ており、犬を連れた人や馬に乗った人などが描かれています。

ガラスの仕切りを通して廊下に出ると、パリの図柄と鋳
型のオリジナルのプラスターが何百点も並んでいます。
これらは、1970年代にタイル製造を停止したモウ社か
らアイアンブリッジ峡谷博物館が買い取ったもので、そ
の数だけをとっても、モウ社がかつて世界最高の生産力
を持つ企業であったことが分かります。



ロング・ギャラリーから1階に下りると、最後の見学場
所となるクレイヴン・ダンニル社の現在の作業エリアを
通って入り口に戻ります。この後は、カフェで休憩して
ショップでお買い物をお楽しみください。

